

令和元年度 自己評価書

学校名	和歌山市立安原小学校
校長氏名	山本 幸司
作成日	令和2年 2月14日

1 教育目標

自ら学び、心豊かで創造性に富む子どもを育成する。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力	豊かな心	健康でたくましい体	開かれた学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業がよく分かる児童が90% ○ 学力調査基礎問題正答率が市平均以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が楽しいと感じる児童が90% ○ いじめの解消率が100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝ご飯を食べた児童が100% ○ 体力テストの走種目が県平均以上に 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の様子がよく分かる保護者が90% ○ 中学校区での連携実践できた教員が90%
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 基礎・基本の定着 ◎ 主体的・対話的な授業の推進 ◎ 家庭学習の推進 ○ 読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 道徳・人権教育の充実 ◎ いじめの未然防止・早期発見 ◎ 体験活動の充実 ○ 仲間作りの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 体力向上の推進 ◎ 健康・安全習慣の確立 ◎ 基本的生活習慣の確立 ○ 危険回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 家庭・地域との連携の充実 ◎ 幼少の接続の連携 ◎ 中学校区での学校連携の推進 ○ 地域資源の活用推進
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後学習や個別指導により、粘り強く考える学習習慣の定着を図った。 ○ 進んで自分の課題を見つけ、追及する授業を実践した。 ○ 家庭学習の手引きを作成し、各学年ごとに適切な課題を与え、家庭と協力しながら学習習慣の定着を目指した。 ○ 図書ボランティアや図書の時間の読み聞かせ、家庭での読書の啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳科の授業にも体験的な活動を取り入れ、充実を図った。 ○ いじめアンケートを年間複数回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めた。 ○ 異学年遠足等、異年齢交流の良さを生かした活動および、紀北支援学校との交流学习を推進した。 ○ 児童会・委員会活動、集会、学級会等で子ども同士が関わる機会を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大休憩・昼休憩での外遊びを推奨し、体力の向上を図った。 ○ 体力テストで判明した走種目の弱点を意識した体育の授業を実施した。 ○ 早寝、早起き、朝ご飯を推奨した。 ○ 防犯・防災の避難訓練や交通安全教室を計画的に実施し、危険回避能力の育成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校だより、学校HP、PTAだより等を通して学校の情報を発信し、授業や行事を積極的に公開した。 ○ 幼少の接続のため、地域の幼稚園や保育所との連携を密に行なった。 ○ 中学校区での学校連携に努めた。 ○ 生活科や総合的な学習の時間等を活用し、3年生は校区探検、5年生は地域での米作り等、また他の学年も地域での体験活動に取り組んだ。
(評価結果【C】課題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国及び県の学力調査の結果、目的に応じて調べたことを報告する文章を図や表やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書くことの正答率が低い等、依然として本校の課題は解消できていない。 ○ 本年度の各学年の研究授業は、それらの課題に着目した授業を実施したが、これからも、日常的に授業の中で、課題解決のために必要な情報を選択する活動を取り入れることを研究する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートを毎学期実施し、いじめの早期発見と早期対応により、早期の解消ができた。 ○ 学校に不慣れな1年生と最高学年である6年生のペア活動は、6年生のリーダーとしての自覚を高め、その後のリーダーとしての行動につなげることができ、さらに、4年生を中心とした支援学校との交流により、相互理解を深めることができた。 ○ 子どもたちは、積極的に児童会や委員会活動に取り組んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学級で大休憩や昼休憩での遊び方を工夫し、取り組むことができた。 ○ 体育の授業だけでなく、マラソン大会の前には、全校で大休憩にマラソントイムを設け、練習し、シャトルランに改善傾向が見られた。 ○ 各学期に火災・不審者・地震とそれぞれ異なるテーマで関係機関と連携した訓練を実施し、また、夏休み前には、1・3年生に交通安全教室を実施し、危険回避能力の育成に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種たよりの定期的な配付、ホームページの更新を心がけた。情報量はどうかの検証は必要である。 ○ 中学校区での連携については、道徳研究校との小小連携を行った。今後は、教科の中学校への接続等についても深めることも必要だと考える。 ○ 生活科や総合的な学習の時間等を活用し、どの学年も地域での体験活動に取り組んだ。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の中に、比較する活動や自分の考えを書く活動を適切に位置づけるために、教材の研究や資料等の準備する時間を着実に確保できるよう、校務の整理等に努めたい。 ○ 家庭学習のねらいや方法について、保護者への一層の啓発に努めるとともに、児童が進んで取り組む課題の与え方を工夫したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の規範意識、リーダー性の低下傾向が止まり、規範意識の向上が各種の調査結果から見られる。児童には、さらに、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送らせたい。 ○ 児童の自主的な活動を支援し、活動への意欲を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き休憩時間にスポーツテストで課題となっている柔軟性・持久力・瞬発力の向上につながる遊びや、体育の時間での取組をすすめる。 ○ 避難訓練を中心に、日ごろから、危険回避能力の育成・向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米作りをはじめとする農業体験、図書ボランティアに加えて、ミニコンサートや昔の遊び、また授業支援など、地域の方と連携・交流できる場を設けていきたい。

3 その他の課題

・全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査で、「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに対して、あてはまると回答した児童の割合が、本年度は84%で、昨年同様、全国平均を2ポイント以上高くなった。児童の自尊感情の育成は本校の現職教育の研究テーマでもあり、授業での児童の活動について見直してきたことの成果が現れてきたと考え、続けていきたい。